263 ドブタミン負荷検査時の血圧低下機序

今井嘉門、堀内孝一、弓倉　整、斎藤　顕、小沢友紀雄、上松瀬勝男　（埼玉県循環器病センター、日大二内）

ドブタミン(DOB) 負荷時の血圧低下(BP)の機序は、運動(EX)負荷時に認めるBPと同じであるか否か、冠動脈疾患患者258症例で検討した(DOB負荷:133症例、EX負荷:125症例)。BPは負荷中に１分前より収縮期血圧の低下≧20mmHgと定義し、同時に施行したタリウム心筋シンチ(SPECTの短軸像）で定量的に心筋虚血の範囲を計測し、左室の20%以上の場合は広範囲の心筋虚血とした。BPはEX負荷では5.6%(7/125)、DOB負荷では21.0%(28/138)に認めた。BP例では、広範囲の心筋虚血はEX負荷では71%(5/7)に、DOB負荷では25%(7/28)に認めた。DOB負荷時のBPは、EX負荷と比較して高頻度であった。しかし広範囲の心筋虚血の頻度は少なかった。これより、DOB負荷時のBPの機序はEX負荷時のものと相違しているものと推察される。

264 梗塞部心筋viability の評価における運動負荷および安静時Tl-201心筋SPECT とドブタミン負荷心エコー図と比較

外山卓二、石田良雄、下永田剛、広瀬義晃、林田孝平（国循セン　放診部）、西村恒彦（阪大トレーサ）

梗塞(MI)部心筋viability(VB)の評価における有用性を、運動負荷(EX)再分布(RD)、安静時(R)Tl-201心筋SPECTとドブタミン(DOB:5μg/kg/min)負荷心ｴｺｰ図で比較した。VBはSPECTのMI部におけるRD、Rでのfill-in(+)、DOB負荷心ｴｺｰ図での壁運動改善により判定した。19例23MI部中，DOB•VB(+)はRD•VB(+)の7/10部(70%)、(RD+R)VB(+)の11/14部(79%)、さらにRD•VB(-)の4/13部(31%)でDOB•VB(+)であった。また%uptakeによる評価ではRDよりRの方がDOB•VB(+)を良く反映した。以上よりDOB負荷心ｴｺｰ図はRDによる判定よりも有用と考えられたが、Rによる判定に比べると正診率はやや劣ると考えられた。

265 経口糖負荷後の^{201}Tl心筋シンチグラフィーにて心筋虚血を確認し得た食後狭心症の一例

高島重和（箕面市立　内）、善積　透、青山　毅（同　中放）、山崎紘一（同　放）、山根光量、松沢佑次（大阪大　二内）

［症例］55才男性。1981年胃十二指腸潰瘍に対し胃部分切除を受けた。1985年頃より労作時胸痛、食後胸部不快感が出現していた。運動負荷心電図でST低下、ジピリダモール負荷Tl心筋シンチで前側壁に再分布を伴う欠損像、冠動脈造影にて3枝病変を認めた。食事摂取と胸部症状の関連を検討するため75g糖負荷後、約20分で胸部不快感出現時にTlを投与した。心電図上虚血性変化は認めなかったがSPECT像で前側壁に再分布を伴う欠損像が出現した。profile curveでは同部で逆再分布の程度が大きく虚血が明らかとなった。糖負荷にて狭心症状を誘発し、Tl心筋シンチにて虚血性変化を確認し得た一例を報告する。

266 キシリトールはＴ１心筋再分布に影響するか

中川達哉*、杉原洋樹、谷口洋子、伊藤一貴、大槻克一、志賀浩治、馬本郁男、原田佳明、片平敏雄、中川雅夫（京都きづ川病院　循内*、京都府立医大　二内）

Ｔ１心筋シンチグラフィ施行時リポースを投与すると、虚血部再分布が改善するとの報告がある。同じ５炭糖であるキシリトール投与により、washout rate(WR)が影響されるか否かにつき検討した。早期像撮像後、５％キシリトールを点滴静注、１時間後および４時間後の再分布像よりWRを算出、同一症例における生理食塩水投与時を対照として比較検討した。１時間後像では健常部WRはキシリトール投与時、対照より約５％高値であったが、４時間後像では有意差を認めなかった。また１時間後では健常部のみでなく虚血部のWRも亢進していた。キシリトールはＴ１ washoutを亢進させるが、再分布像の改善効果の有無についてはさらに検討を要する。

267 ^{201}Tl負荷心筋シンチグラム（Ex-Tl)に於けるRibose投与と24時間後像の対比

池部伸彦、松本めぐみ、鎌田達也、笠井龍太郎、宮下岳夫、渡辺健、小林泰彦、永井義一、伊吹山千晴（東京医科大学２内）　藤田賢二、白岩啓志（同　放射線科）

心筋Viability の評価に関し、Ribose併用投与が24時間後像に代わり得るかを比較検討した。　前壁中隔心筋梗塞10例に２週間以内に２度Ex-Tl を施行し、負荷直後像を撮像後、一方はRibose3.3mg/kg/minを（Ｒ群）、他方は同量の生食を静注し（Ｓ群）４時間後に再分布像を撮像し、Ｓ群は24時間後像（Ｓ24）も撮像した。Ｓ群に比しＲ群は８例、Ｓ24は６例で再分布の促進を認め、Ｒ群とＳ24の比較では、Ｓ24に比しＲ群が５例で再分布の促進を認めた。　Ribose併用投与は再分布を促進する事が示唆されたが、24時間後像と完全には一致せず、その機序は単一ではないと考えられた。

Presented by Medical*Online